

知事と県民の意見交換会（秋田地域振興局）議事要旨

- テーマ : これからの社会、これからの秋田
- 日 時 : 令和6年7月10日（水）10：00～12：00
- 場 所 : ノースアジア大学 40周年記念館 講堂

知事あいさつ

この意見交換会は、県が何をすべきか、皆さんの意見を政策や事業にどう反映するかを考えるために行っている。秋田の将来を担う若い方の話はとても重要であり、皆さんがどんなことを考えているか、希望を持っているか等を中心に意見交換を行いたい。皆さんとは年齢の差があるが、自由に意見を述べていただきたい。

意見交換

（局長）

本日は、「これからの社会、これからの秋田」をテーマに意見交換を行いたい。最初に、「私がイメージする10年後、20年後の世界」についてお話いただきたい。

（A氏）

私は、大学で観光学を専攻している。

10年後、20年後の秋田県は、観光の分野が更に成長してほしい。

世界の人口は増加している一方、日本、特に本県は人口が減少しており、20年後はより減少していると思われるが、イギリスやドイツなど、日本よりも人口が少ないものの豊かな国は沢山ある。本県は、東北の中でも県外や海外からの訪問者が少ないが、マイナスなことではなく、今後成長できる可能性や伸び代だと捉えている。新しいものを創造するだけでなく、既存のものの価値に気づいてもらう活動をし、それを活用していくことが重要だと感じている。

白神山地は県民が誇りに思う有名な観光地というイメージがあったが、インターンシップで白神山地を訪問した際、本県側からの観光客の入山が少なく、様々な問題から観光地として活用できていないと感じた。既存のものの価値に気づいて売り出す活動を20年後までに行えたら良いと思う。

（B氏）

私は、国際教養学部グローバルビジネス課程で学んでいる。東京都出身で、秋田県に来て3年になる。

10年後、20年後の世界について、四点挙げさせていただく。

一点目に、物理的な距離を感じさせない社会が到来すると考えている。情報技術を活用して世界中の人々とバーチャルでつながる社会となっているが、今後は物理的にもつながることが可能な社会になるのではないかと考えている。大量地下輸送システムや宇宙空間を利用して都市間を移動するような技術が現在開発されていると聞いたことがあるが、秋田県から首都圏などの遠い場所へ通勤・通学

ができる社会が到来すると、自然と共生したい人が本県に移住してくるなど、新たな可能性が拓かれると思う。

二点目に、2030年や2040年問題に直面する中で、地方の過疎化や衰退を免れない社会になると考えている。高齢化により地方に課題が偏在することになると思うが、高齢者が多いからこそ、その方々のノウハウや技術、知識を若者に継承していく枠組みやシステムを構築することが大切だと考える。

三点目に、カーボンニュートラル社会が到来すると考える。政府が2050年までにカーボンニュートラルを達成するという目標を掲げているが、クリーンエネルギーの需要が増加し、人々の環境に対する意識がより向上する社会になると考えている。

最後に、アメリカや中国が世界情勢を左右するという大きな枠組みの中にインドという新たな第3国が出現し、良くも悪くも大国に振り回される社会が到来するのではないかと考えている。

(C氏)

私は小学校の途中まで東京で暮らしていた。車に興味があり、大学では情報科学の教授の研究室で自動運転について研究している。

情報科学の観点から、10年後、20年後の世界は、個人に最適化した製品やサービスを提供できる企業や自治体などが競争を勝ち抜ける社会になると考える。

昨今、ジェンダーやハラスメントなど、個人の価値観の違いから生じる問題に世の中の関心が集まっていたり、AIやIoTといった情報を集めて分析する技術などが確立されたりしていることから、個人のニーズを細かく把握し、一人ひとりに最適なものを提供することが今後大切になってくると考えている。企業だけではなく、国や自治体も住民それぞれに合ったものを提供するために、詳細に把握した需要を生かしたアウトプットを行わなくてはいけないと思う。

(D氏)

私の出身は大阪府で、農業や田舎暮らしに興味があり、大学進学で秋田県に来た。生物資源科学部アグリビジネス学科で学んでいる。「こめらむね」という米粉を使ったラムネ菓子を三種町下岩川地区で製造し、県内で販売している。

10年後、20年後は、情報や技術などが更に発達した便利な時代になっていると思う。地域おこし協力隊などで本県に来た方の中には、リモートで仕事をしている人もおり、仕事の仕方が新しくなっていると感じる。ほかにも、機械の使用により少ない人手で農業を行えたり、POSレジの使用により楽に販売情報の集計ができたりと便利な技術が増えており、今後技術が更に発達していくと考えられる。

また、20年後には、高齢化により、自由に動けない方が増え、統一化された便利な技術が生活に欠かせなくなると考えられるが、個人商店の味やこだわりの作物の作り方などの技術を残す選択もできるようなになると良いと思う。

(E氏)

大学では、景観デザインを専攻しており、フィールドワークを通じて土地などを観察・分析し、課題に対して建築模型や立体作品で提案をしている。

10年後、20年後の世界は、人や地域、もののつながりが、より希薄化していると考ええる。少子高齢

化や人口減少、過疎化といった問題から、今以上に隣人や地域と関わりを持たなくなり、伝統の喪失が問題として、より顕著に表れてくると考えている。

更に物流が発達し、通販など遠方からの購入がしやすくなることで、現地で手に取ったり購入したりする意味が薄れ、その土地ならではのお店や商品が減っていると思うが、土地の固有性を売り出すことで対処できると考える。

(知事)

皆さんがおっしゃったことはそのとおりだと思う。

私が一番懸念するのは、国際情勢とそれに伴う日本の社会である。国際化や情報技術の発達などにより世の中は豊かになるが、その反動で失うものもあるため、日本社会は危うい状態である。世界情勢の大きな流れを止めることは難しいが、どのように流れに乗るか、どのように自分の力や地域の個性を出していくかが一番重要であり、皆さんの発言に共通する点だと思う。

また、何事も一つのものに頼ることは危険であり、観光や工業など、様々な分野がバランス良く役割を持ち、何か一つが止まったとしても国が保たれる状態が良いと思うため、皆さんには専門を極めながら、専門から展開される物事も意識してほしい。

何かあれば日本の機能が麻痺してしまうため、東京一極集中ではなく地方に役割を分散させるべきだと思う。また、戦時の状況などを踏まえると、日本が大変な状況に陥ったとき、食料・電気・水・土地がある秋田県が生き残ると思う。皆さんには、新しい物事が生まれ社会が変わっていく一方で、歴史は繰り返されることについても考えてほしい。

車について話があったが、自動運転で高速道路は走れるようになると思うが、秋田の冬道は難しいと考える。

(B氏)

先ほど、地域の個性を出していくのが重要だと話があったが、知事は秋田県の個性や他県と違うところは何かと考えるか。

(知事)

自然は近隣県と大きく変わらないが、歴史や文化は土地によって異なる。角館の武家屋敷を訪れる観光客が多いのは、歴史や文化があるからだと思っており、歴史や文化をどうアピールするか、どう磨きをかけるかが重要になる。

本県は、モノに価値を付けて商品にすることがあまり上手ではない。県外の方による食品開発が成功しているのは、固定観念がなく、新しい発想ができるからだと思うため、同じ地域の人だけで集まるのではなく、皆さんのように異なる出身地の方々と考えるのが良い。

(C氏)

自家用車よりもバスの方がプログラムをより容易にできるため、公共交通の方が自動運転と親和性が高いと考えている。ドライバー不足や公共交通との親和性から、秋田県など地方の方が自動運転を生かせる場面が多いと思う一方で、自動運転の技術革新が進んでいるのは首都圏だと感じている。技術革新の中心地が首都圏から地方に移ることを今後期待しているが、知事はどう思うか。

(知事)

都市部より人口が少ないため、地方では運用にコストがかかることが課題である。

自動運転技術の開発は進んでおり、マグネットを感知させる等、様々な方法の実証実験が行われている。

(局長)

次に、「変わる社会の中に立つ私の姿」についてお話いただきたい。

(A氏)

私は、参加者の中で唯一生まれてからずっと本県に住んでいることもあり、秋田に愛着を持つ人やいずれ帰って来たいと思う人を増やす役割を担いたい。

大学で観光を学ぶまでは、住んでいるからこそ秋田県の魅力に気づけていなかったが、大学の竿燈会に所属し竿燈まつりに参加した際、地元の方などと交流したり、伝統の継承に関わっている責任を実感したことで、本県に残りたいという気持ちになった。このような経験を若い人にもしてほしい。

私は、鉄道サービスに関する企業で働く予定で、県外で働く可能性が高いが、いずれは秋田に戻り、秋田に残りたいと思う人を増やしていきたい。先ほど、情報データシステムや技術の話があったが、鉄道業界でみどりの窓口の削減が延期となった例がある。それは、機械では対応できない一人ひとりのニーズがあるからであり、AIに代えられないような対面によるコミュニケーションを大切に仕事をしたい。

また、駅自体を観光資源として活用できるよう、駅の魅力を向上させるような仕事をしたい。

(B氏)

世の中を変革するには必ず技術が伴うと考える。特に、生活基盤を支える重厚長大産業が人々に与える影響は大きいと考えているため、私はそれらに関わる企業で働く予定である。資材調達や営業などで技術開発に貢献し、日本の技術を世界中に広めることで、世界中の人々が幸せに暮らせる環境を支えられるように頑張りたい。大学で培った国際経験や語学力を生かして、様々な国の政府や地方自治体と交渉・折衝し、技術などを広めることで、変革の最前線で働きたい。

また、世界をベースとして語り合うことが求められており、相手を知ることが大切だと考えているため、様々な国の歴史や文化などを知り、幅広い問題に対応できる人間になりたい。

社会の変化に合わせてルールも変化するが、ルールを決める議員などを選ぶのは我々有権者である。政治に興味や関心を持ち続け、先進的な感覚や具体的なビジョンを兼ね備えた人を見極めて投票することで、日本や世界の未来を自分事として捉えていきたい。

(C氏)

秋田県で活躍する人々が想像力を生かして仕事をするのを手伝いたいと考えている。私は、ICTの技術を使い、機械ができる仕事は機械に任せ、人は人だからこそできる仕事に専念することをテーマに掲げている会社に就職が決まっている。人口減少が進む本県だからこそ、数少ない人材にその人だからこそできる仕事に取り組んでもらうことが大切だと考えているため、県の現状や動向に対して常に関心を持ち、県の将来にとって最適な提案ができるようになりたい。また、人だからこそできる配慮や気

配りを大切にして、お客様の悩みや労働力不足などに対応したい。

（知事）

県内の農業と建設業においては、どちらも人材不足が深刻である。ダムの建設現場ではリモートで作業ができ、農業では無人田植機、飲食店ではタブレットや2次元コードを使用している。必要があれば技術の導入は進むと思うので、皆さんには社会に出て、使いやすいツールを作っていただくようお願いしたい。

（D氏）

去年の6月からキャンピングカーで暮らしており、車で移動しながら、旅行や農業の手伝いなどを県内各地で行っている。

将来的に就農を希望し大学に入学したものの、農家の方が朝4時から土づくりなどの作業をしており大変そうだったことや他の農家との違いを出せないと思ったことから、私に農業はできないと悟った。しかし、秋田県が好きなため、卒業後も県に残る予定である。

先ほど知事から物に価値を付けて商品にすることがあまり上手ではないという話があったが、私は付加価値を付けて物を売る役割を担いたい。野菜一つにしても育て方やこだわりが既に付加価値になっていると思っており、それを発信すべきだと考えている。地域や農村をコーディネートし、魅力を発信できるような仕事をしたい。

（知事）

秋田では安い値段で売っているわらびが東京では高い値段でも売れるように、自分の尺度だけでものを見るのは非常にもったいない。価値を理解するには、県外の人々の声が必要なきもある。

（E氏）

地域と接する機会に積極的に参加したいと考えている。

大学2年次から参加しているにかほ市を対象とした地域プロジェクトでは、平沢地区や金浦地区に流れ山が多く存在することに着目し、まちあるきを実施した。参加した地域の方に地域の魅力を再認識してもらうとともに、県外の方にも参加いただき、地域を盛り上げることができたと感じている。

地域プロジェクトによってその土地に愛着が湧くと思うため、将来は既存のプロジェクトへの参加や自分が担い手として場所づくりを行いたい。

（知事）

秋田県の絵画や踊りなどの芸術文化は、日本の中でも相当レベルが高い。文化をどう生かすか、どう今風にするかを考え、文化をより良く変化させてほしい。

（局長）

Eさんは景観デザインを専攻されているが、これからの景観デザインや建築についてどのように考えているか。

(E氏)

その土地の文化や歴史などを生かした、外部や内部の人にも魅力的な建築や空間をデザインすべきだと考える。流行のものは一時的に盛り上がるが、均一化されたもののためすぐに廃れるだろう。その土地でしか成り立たない建築は、外部の人には観光資源となり、内部の人はその建築を誇りに思えるようになるため、土地に根ざした考え方が必要だと思う。

(局長)

「新しい時代における秋田の可能性を探る」という切り口で、これまでの話を踏まえ、秋田県の強みや可能性についてお話いただきたい。

(A氏)

秋田県の観光分野を伸ばすために、行政や地域住民、観光事業者の方々の連携を強める必要があると考えている。

大学でのフィールドワークを通して、観光事業者の方々が様々な取組を行っていることを知った。実際に話を聞くまで知らなかったこともあり、分野の違う方々とも連携をしていく必要性を感じた。

私がインターンシップで訪問した美郷町は、湧水が有名であり、観光事業者の若い方が美郷町の水を活用した商品を作りたいと考えていたが、地元の方はその価値に気づいておらず、あまり賛同を得られなかったという話を聞いた。このことから、地元の方に価値に気づいてもらい、理解してもらうことも大切だと感じた。

また、竿燈まつりには多くの県外観光客が訪れるが、県内に宿泊しない方も多いため、もったいないと感じている。受入態勢を整えることが持続的な観光につながっていくのではないかなと思う。

P Rが上手くできていないところも残念に感じる。取組を行っている地域は多くあるが、実際に話を聞くまで分からないことも多くあったため、まずは県内の方にP Rし、知ってもらうことが良いと思う。

(B氏)

強みや可能性だと思う点を、三点挙げさせていただく。

一点目は、再生可能エネルギーである。大学の講義で、秋田県沖の洋上風力発電の開発とその可否というテーマのドキュメンタリーを撮影した際、洋上風力発電会社の方や地元の漁師の方などに話を聞き、再生可能エネルギーが非常に注目されていると感じた。また、Apple社がグローバルサプライチェーンに対して2030年までに脱炭素化するよう要請するなどの動きもあり、再生可能エネルギーへの注目度が高まっていくと思う。再生可能エネルギーに力を入れることで、脱炭素化に関する取組をしたい企業が本県に進出し、雇用や人口の増加につながる可能性がある。熊本県では、台湾の半導体企業が進出したことで高い時給の求人が出ており、企業の進出は地域が変わるチャンスになると思った。

二点目は、観光である。友人が秋田に来た際、交通費が高いことや悪天時に自然の魅力が半減することが課題だと感じた。同じ金額で行ける他の場所よりも秋田に行きたい、天気が悪い日ほど秋田に行きたいと思わせるブランディングが必要なのではないか。

モノ消費からコト消費にシフトしていることもあり、食や酒、伝統工芸品づくりもアピールすべき

だと思う。先日、大館市で曲げわっぱを作ったが、工芸品が手元に残ることに加え、経験することで文化の素晴らしさや問題などに着目するきっかけになると感じた。

観光地が県内各地にあり、車移動が基本になるため、車中でも楽しめる何かがあればより良い観光施策として打ち出すことができるのではないか。また、田んぼやあぜ道などが実は魅力的なこともあるため、何気ない自然の景色を観光資源化するのも良いと思う。

三点目として、本県に来てから、「よくこんなところに来たね。」「こんな田舎じゃ退屈でしょう。」と言われることが多く、県内に住んでいる人がそのような考えでは、秋田県はなかなか変わらないと感じたため、住んでいる人が誇りを持てる教育など、意識を変える何かがあれば良いと思う。

(C氏)

固定観念にとらわれずチャレンジする必要があると思う。

先ほど話にあったように、エネルギーや食料、工業、工芸品、芸能、自然の風景など、秋田県には数え切れないくらいの魅力があるが、新たなチャレンジがしにくいことが問題だと感じている。その背景には、新しいものを歓迎できない県民性があると思う。

また、Eさんがおっしゃっていたように、これまでは内部の人にも理解してもらえるやり方で進めるということが欠けていたため、積極的にチャレンジすることと併せて、地域の方々に寄り添い一緒に秋田を盛り上げようとするのが大切だと考える。

Aさんが、人口減少はマイナスばかりではないとおっしゃっていたように、多い方が良いという価値観を転換することで気づく価値を周知すべきである。

(D氏)

進学前に秋田県や東北を旅行したことがあるが、他県と似ているところが多く、観光地として魅力を感じるところが少なかった。

しかし、秋田県に実際住んでみて、観光するだけでは秋田の本当の魅力には気づけないと感じた。三種町下岩川地区の住民の方は、会いに行くともてなしてくれるなど、損得勘定を感じさせないほど人が良く、それが秋田の魅力だと思った。人との関わりに魅力を感じるのは私だけではないと思うため、都会で疲れた人などにも秋田に来てほしいと思う。

また、秋田でビジネスをしている人に県内出身者が少ないと感じ、残念である。私がビジネスの活動をしていて、商工会の人と話したり、起業している若者たちの会議に顔を出したりしていると、県外出身者が多いと感じる。県内の方にも秋田の良さや商材になり得るものを発見してほしい。

(E氏)

先ほども話したとおり、その土地に根ざした文化や歴史から建築や施設などの拠点を作ることで、その土地の特徴性を強めていく必要がある。地域の人が意見を言ったり交流したりする場所が少ないと感じるため、そうした場を作ることで秋田県の魅力を共有し、外部に発信する前の土壌づくりにつなげることが大切だと思う。

本県の魅力は、美術・芸術分野が外に開けているところだと思っており、県立美術館や秋田市文化創造館での展示などを通して学生と地域の人が交流できているため、芸術分野に限らず様々な分野でそのような場を生かしていけば、より盛り上がるのではないかな。

今は学生が作った美術作品を通して形のあるモノの交流が進んでいるが、地域の工芸品や、能や祭りの踊りといった形のない芸術も共有すべき魅力的なモノだと思うため、県の入り口である秋田駅などで紹介し、認知度を高めるのが良いと考える。

知事総括

的を射た話だと思う。

国民性や県民性は簡単に変わるものではなく、変わるためには外からの刺激が必要である。交通の便が良くなり、海外旅行者や県外の企業が入ってくことで刺激となり、県民性が変わりつつあるので、うまくプラスにしていくことが必要である。

天気が悪いときの観光について、Bさんのような意見はなかなか出てこない。後で担当課に伝えたい。天候は変えようがないため、その状況にどう合わせていくかを考える必要がある。

県外企業が県内にホテルを建設予定だが、県外企業が進出するということは、秋田県には可能性があるということなので、その可能性をどう活用するかが大切である。

また、資源に付加価値をつけることが大切であり、風力発電や観光などにおいて、県外資本への場所貸しになってしまうことがないように注意しなくてはならない。単に資源を供給するだけではなく、資源の供給を通じて地元産業がどう関わっていくかを考えなければならない。

若いパワーがなければ何もできないため、若い方が住みたいと思うような楽しい秋田をどう作っていくか、若い方自身にも考えていただきたい。